

Title	藏書家の親交：新見正路と屋代弘賢
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1961
Jtitle	史学 Vol.33, No.3/4 (1961. 4) ,p.188(446)- 188(446)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録 史學科開設五十周年記念
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19610400-0188

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

- (23) プラーシユ、人文地理學原理、岩波文庫、昭二八、下巻 一九頁、二六頁以下參照。
- (24) I Rostovtzeff, p. 62.
- (25) II Rostovtzeff, p. 1491, n. 124; cf., p. 458.
- (26) cf., Dussaud, p. 26.
- (27) ナバテアばかりでなく、アラビア全體にいなかった (Hdt., VII, 87)。プラーシユはナバテア人がすぐれた速力を持

つ輪送用單峯ラクダを品種改良によつて作つたと考えた (人文地理學原理、下巻一四一頁參照) が、既に *Karxes* のギリシア遠征軍のアラビア人は「速力が決して馬に劣らないラクダ」(Hdt., VII, 86) を使っていた。だから、ナバテア人が戰鬥の場合に馬を使うのは不思議で、外の影響を思わせる。

(28) cf., Dussaud, p. 17.

藏書家の親交

武 田 勝 藏

——新見正路と屋代弘賢——

戦災で焼失した藏書の中に、賜、蘆、文、庫、不、忍、文、庫の印記のあるものが若干あつた。その印記の前者は昨今、再認識された遣米使節新見正興の父正路のもの、後は上野の不忍池畔に文庫數棟を持つていたと云う臨池堂主人屋代弘賢のものである。

過日、茅ヶ崎市舊家石田文吉氏の家藏の數百の先哲書翰の一部を拜見中に、この兩人が藏書同好から親交があり、正路が弘賢に教をうけている書狀が眼に觸れ、再び入手出來ぬ焼失の藏書を追憶して感慨無量であつたので、左に掲げる。

一昨日者、相願候管弦目録早速御借被下忝奉存候、昨日營中にて返上可仕處、御膳被爲進ニ而、御本殿え不罷出候間、今朝返上仕候、延引御用捨可被下候、御歌いづれも感心仕候、且、爲家卿家集爲御見被下忝奉存候、十八日迄御借可被下候一後鳥羽院御集校合仕度、御藏本恩借之程希望候一錦木はたてなからこそ朽にけれと讀る錦木は、いか様之形ニ而候哉、古圖可有之奉存候、御教示被下度候
○星ひとつ見つけたる夜の嬉しさは、月にもまさる五月雨の空

右讀人出所奉候、書餘期拜顔時候、頓首

二月十六日 正 路

屋 代 様